



中央ウェイ

6月号

移り行く社会に対応するために

主幹教諭 上村保志

4月に主幹教諭として転任いたしました上村保志（うえむら やすし）と申します。

私は、中央ろう学校が開校した平成18年から7年間在籍していました。当時、中学生、高校生だった皆さんが、社会人になり、様々な場で活躍をされている姿や、近いところでは、部活動指導者として中央ろう学校を支えてくれている先輩方を見ると、とても誇らしくもあり、うれしい気持ちになります。設立当初を振り返ると、本校は大学等への進学を目指した中高一貫校として、大型ディスプレイの各教室への設置、プレゼンテーションソフトを活用した指導、テレビ会議システムなど、ソフト・ハード両面において、その当時の最先端を進んでいた学校だったと思います。それから15年が過ぎた現在では、これらのディスプレイやプレゼンテーションソフトは当たり前のものになりました。特に、特定の場所でのみ接続することができたテレビ会議システムは、コロナの影響により無線オンラインシステムが急速に広まり、この2年余りで授業にも多く取り入れられるようになりました。社会の急激な変化を感じます。

さて、この「社会の変化」という点について、「東京都特別支援教育推進計画(第二期)第二次実施計画」では、方向性Ⅲとして「変化・進展する社会に対応した特別支援教育の推進」が示されています。そして、その施策の中の一つが、「デジタルを活用した教育活動の展開」です。

1 デジタルを活用した教育活動の展開

(1) デジタルを活用した教育の充実

(2) デジタルを活用した教育を推進するための環境整備

(東京都特別支援教育推進計画(第二期)第二次実施計画より抜粋)

(1)の「デジタルを活用した教育の充実」という面では、中学部・高等部の授業において、昨年度から、様々な学習支援アプリケーションを積極的に活用した授業を行っています。アプリケーションの進化は日進月歩であり、これからの教育において、不可欠な教具になることが想定されるとともに、大きな教育効果が期待されます。また、(2)の「デジタルを活用した教育を推進するための環境整備」という面では、本校の中学部1年生から3年生各自にはタブレット端末が整備され、高等部においても、タブレット端末やノートパソコンを活用した新たな学びに向けて、準備を進めています。

デジタル教材・教具を効果的に活用する力は、教職員が高めるべきスキルの一つとなっています。日々進化するデジタル機器やアプリケーションを効果的に活用できるように研究と修養に励み、生徒それぞれが進路実現、自己実現ができるように支援して参ります。

引き続き、本校の教育活動への御理解・御協力を賜りますようお願い申し上げます。